

第2章 地域福祉を取り巻く現状

1 人口の構造等

(1) 人口等の推移

野田村の人口は、減少傾向で推移し、平成23年から平成27年までの5年間で324人減少し、世帯数は16世帯減少しています。

年齢三区分別人口では、15歳未満の年少人口、15～64歳の生産年齢人口が減少傾向にあり、65歳以上の高齢者人口は増加傾向にあります。

平成23年の高齢者人口割合（高齢化率）は29%でしたが、平成27年には33.1%となっており、人口の減少及び少子高齢化が緩やかながら進行していることがわかります。

さらに、平成27年4月1日時点での人口ピラミッドをみると、年少人口が少なく将来の人口減少が予測される人口構成となっています。また、年齢構成が高齢化している様子がうかがえるとともに、男性では60～64歳、女性では80～84歳の構成人員が最も多く、今後5年以内での高齢者数の大幅な増加が予測できます。

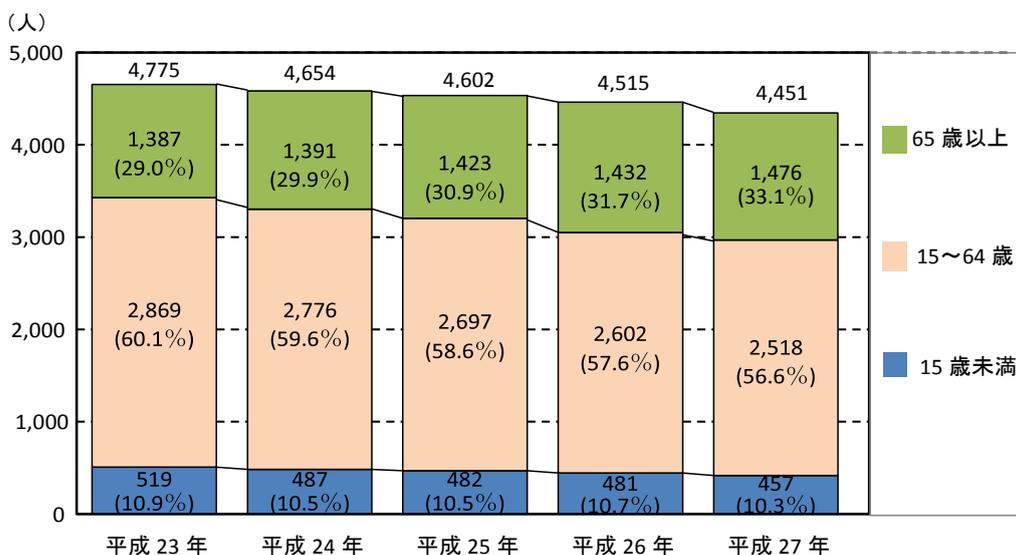
●人口及び世帯の推移

	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年
男性	2,314	2,255	2,217	2,176	2,160
女性	2,461	2,399	2,385	2,339	2,291
合計	4,775	4,654	4,602	4,515	4,451
世帯数	1,662	1,639	1,662	1,642	1,646

(単位:人、世帯)

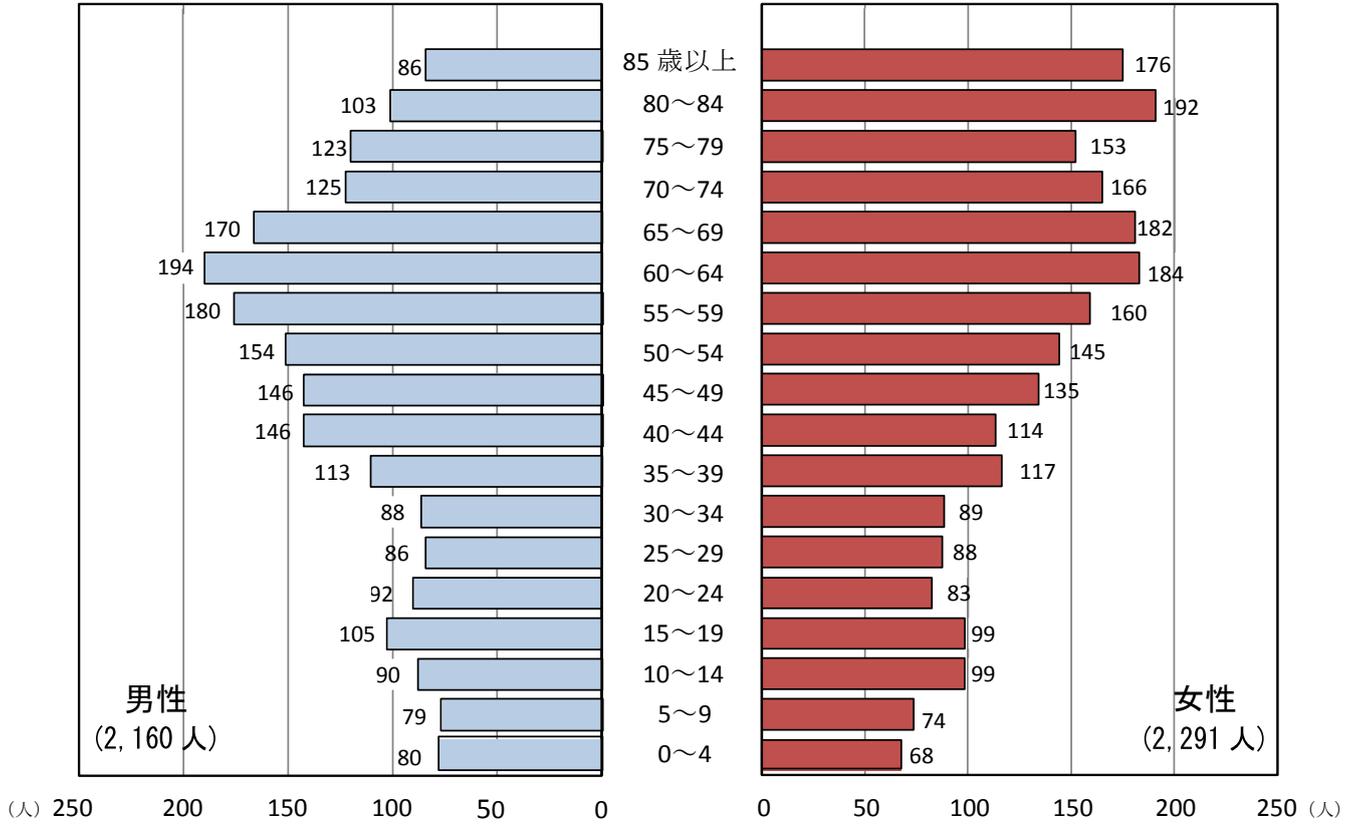
資料：住民基本台帳（各年4月1日現在）

●年齢三区分別人口推移



資料：住民基本台帳（各年4月1日現在）

●人口構成（平成 27 年 4 月 1 日現在）



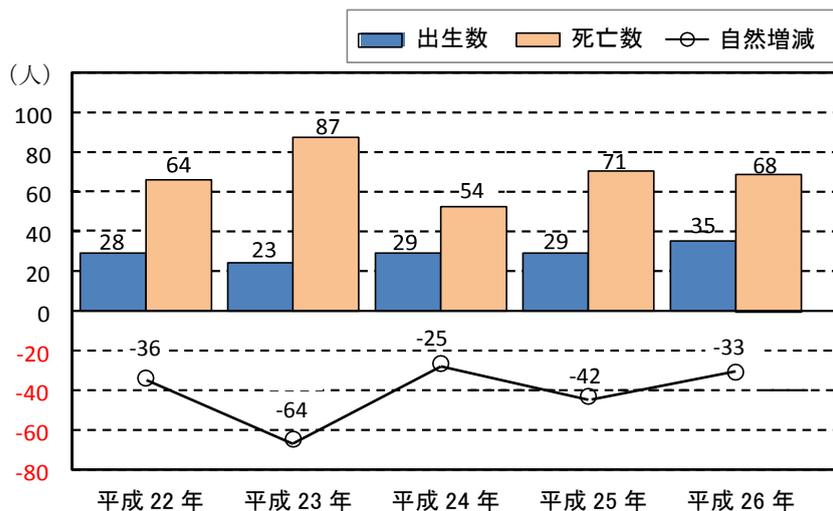
資料：住民基本台帳（平成 27 年 4 月 1 日現在）

(2) 自然動態・社会動態

自然動態について、出生数と死亡数の推移をみると、常に死亡数が出生数を上回り、平成26年の自然増減は、33人の減となっています。

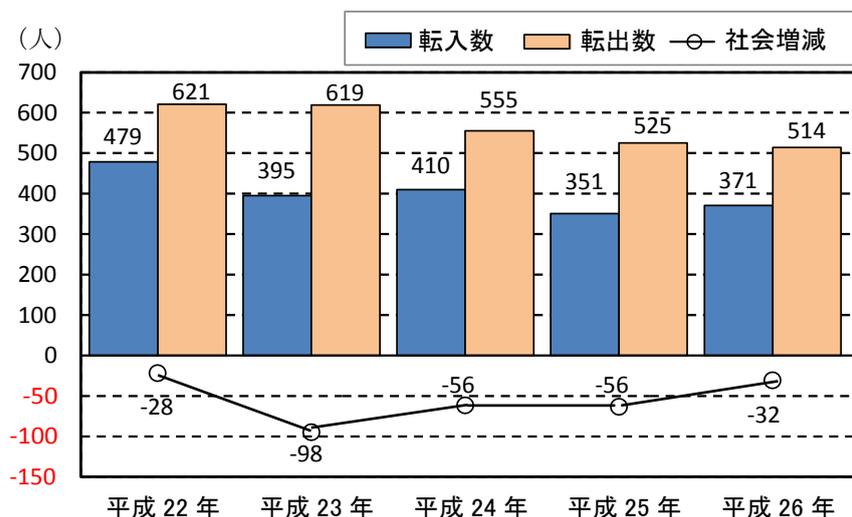
また、社会動態について、転入数と転出数の推移をみると、常に転出数が転入数を上回り、平成26年の社会増減は、32人の減となっています。

●自然動態



資料：住民基本台帳(各年12月31日現在)

●社会動態



資料：住民基本台帳(各年12月31日現在)

(3) 出生数

村の出生数は、平成13年から平成24年にかけて、39人、37人、26人、30人、24人、20人、36人、34人、28人、28人、23人、29人と、ここ数年では30人を下回る年が続いており、緩やかな出生数の低下が見られました。平成25年と平成26年には増加に転じていますが、子どもを産み育てやすい環境づくりが今後においても課題となっています。

●乳幼児、小学校低学年児童数（8歳以下人口）各年齢別の推移

(単位：人)

	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年
0歳	28	24	32	33	27
1歳	28	29	27	33	31
2歳	29	27	31	26	34
3歳	33	28	27	32	23
4歳	29	31	31	27	33
5歳	31	28	31	30	25
6歳	30	32	30	32	30
7歳	28	29	33	32	32
8歳	37	27	30	34	32
計	273	255	272	279	267

資料：住民基本台帳(各年4月1日現在)